

# 1. 評価結果概要表

作成日 平成 19年 4月 5日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4091400038		
法人名	有限会社 クロヤマ		
事業所名	グループホーム むつみ		
所在地	福岡県福岡市早良区内野5丁目2-4-42 〒811-1122 (電話) 092-803-0515		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成19年4月4日	評定確定日	平成19年4月19日

## 【情報提供票より】(平成19年3月20日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 5月 1日		
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人
職員数	10人 常勤	5人 非常勤	4人 常勤換算 6.4人

### (2) 建物概要

建物構造	木造平屋 造り		
	1階建ての～	1階部分	

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(円)	有の場合償還の有無	有 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	383円
	夕食	600円	おやつ	50円
	または1日あたり		円程度	

### (4) 利用者の概要(3月20日現在)

登録人数	9名	男性	3名	女性	6名
要介護1	2名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	1名				
要支援1	名	要支援2	名		
年齢	平均 83歳	最低	67歳	最高	94歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	川浪病院 広橋病院 吉田内科消化器科 コスモ歯科
---------	--------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

介護保険施設での処遇に疑問を抱き、開設したホームである。リビングは南東向きで太陽の光が降りそそぐ心地良い空間であり、入居者は自然とリビングに集っている。リビングの先にウッドデッキが続いており、ウッドデッキに洗濯物や布団が干されて、それらが風なびいている風景は家庭の匂いそのものである。廊下の壁に空間を設け、一輪挿しに季節の花などが飾られていたり、下駄箱の上や玄関ホールに壁に昔なつかしい小物を展示したり、木のプレートで居室の表示をするなど、家庭的な雰囲気づくりへのめいっばいの配慮がうかがえる。仲の良い入居者同士のたわいもないおしゃべりや一人黙々と庭いじりや畑仕事をしたり、風で飛ばされた布団を干し直すなど慣れ親しんだ日常生活が展開されていた。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 今回が初めての外部評価の実施である。今後、外部評価の結果を、家族、運営推進会議、行政、ホーム職員等に、広く周知し、改善に取組んでほしい。
	<b>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</b> 評価実施にあたり、評価内容を全職員に配布してミーティング時に協議するなどの取組みがあった。この過程で、月々の請求書送付時に入居者の状況を報告する書面を検討するなど新たな取組みにつながった。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 家族、近隣住民を交えての運営推進会議が行われている。民生委員、市町村担当者、地域包括支援センターへの運営推進会議の参加の声かけは行っているが、参加には至っていない。まずは、市町村担当者や民生委員等へ運営推進会議の報告をすることによって、ホームへの理解推進や関係づくりを行い、地域や行政との連携を働きかけ続けてほしい。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> 年4回の「ホーム便り」の発行を通じて暮らしぶりを伝え、家族の訪問時の声かけや必要時の電話連絡について、担当職員が積極的に関わり家族の意見や思いなどの表出に努め、またミーティングの際に協議するなどの取組みがある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> ホーム行事に近隣の人を誘ったり、近隣宅で行われる餅つきに入居者と一緒と呼ばれたり、日常の散歩や買物時の声かけなど、地域との交流への取組みがある。今後さらに、入居者も含めた地域行事への参加を増やし、地域の人々の認知症への正しい理解を促すとともに、地域の方々が気軽にホームへ立ち寄りいただけるように取組んでほしい。

## 2. 調査報告(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	月1回のミーティングを利用して、職員全員 がかかわって理念をつくりあげている。		地域密着型サービスの意義の理解を深め、地 域密着型サービスの視点を加えた理念作成に 再度、取り組んでほしい。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝の申し送り時に理念を唱和している。 また、月1回のミーティングの際に、入居者一人 ひとりに対する理念に基づいたケアの提供に ついて、協議がなされるなど、理念の具体的実 践に向けた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流するこ とに努めている	ホーム行事に近隣の人を誘ったり、近隣宅で 行われる餅つきに入居者ともども呼ばれ、日常 の散歩や買物の際の声かけなど、地域との交流 への取組みがある。		入居者も含めた地域行事への参加を増やし、 地域の認知症の理解を促すとともに、地域の 人々がホームへ気軽に来ていただけるように、 継続的に取り組んでほしい。
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	今回、外部評価を実施するにあたり、職員に 外部評価基準の内容を配布して意見を聞くな ど、全職員が関わる取組みがある。この過程 で、毎月の請求書と一緒に入居者の状況を家族 に知らせるための書面を検討中である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や近隣住民を交え、2か月毎に運営推進会議を開催している。民生委員や行政、地域包括支援センター等への参加の働きかけは行っているが、参加には至っておらず、また運営推進会議の内容は、ホームからの説明のみに留まっている現状である。		まずは運営推進会議の内容を行政や民生委員へ発信することによって、ホームへの理解の推進と関係づくりを行い、地域や行政との連携を働きかけを続けてほしい。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議への市町村や地域包括支援センターの参加はなく、市町村担当者等のホームからの積極的な働きかけは、これからの課題である。		まずは運営推進会議の内容を市町村の担当者等へ報告することをきっかけに、関係づくりを進め、例えば介護予防等への市町村の取組みに協力するなど、地域密着型サービスとしての積極的な連携に取り組んでほしい。
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度内容について、職員向けの勉強会は行ったが、家族に対する説明等はまだ行われていない。		全職員が地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について理解を深めることができる継続的な取組みと、必要な時に確実に利用できるように制度の説明及び相談機関の紹介など、家族への繰り返しかつ積極的な取組みをしてほしい。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問時の声かけや必要時の電話連絡などを通じて入居者やホームに関することについて説明している。年4回のホーム便りの発行を通じ、入居者の暮らしぶりを伝えるなどの取組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見や思いなどの聞き取りについては、言いやすい職員が積極的に関わって家族の意見や思い等を聞き、申し送りノートに記載し、またミーティング時にも協議しいかしている。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員と入居者との馴染みの関係の持続への取組みとして、夜勤帯以外の時間帯では常勤職員のみで対応するなど、職員の離職を防ぐための工夫がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。</p> <p>また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員採用に関して一切の制限は設けていない。職員にのびのびと勤務してもらうために、職員の特技を活かしてケアに携わってもらうなどの配慮がある。また、資格取得を目指す職員に対しての支援体制もある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>月1回のミーティング時の勉強会を通じた取り組みはあるが、認知症高齢者への対応のみでなく、広く障がい者問題等の人権問題までを取り上げての研修や勉強会等への取り組みまでには至ってない。</p>		<p>職員の基本的資質でもある人権意識の喚起のために、行政等で行われる講話への参加をはじめ、さまざまな機会を利用して、事業所としてアプローチを行ってほしい。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の能力に合わせた外部研修等への参加がある。また、月に1回のミーティング時に報告会や勉強会等の取り組みがある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>知人の事業所との連携の中で、他のグループホームでの職員研修や実習を行うなど、サービスの質の向上への取り組みがある。</p>		<p>さらなる職員の質の向上に向けて、多様な事業所との連携と情報交換等に努めてほしい。</p>



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にホームに来ていただき、体験入所を通じて入居者や職員との顔なじみの関係を作ってから、入居してもらうなどの工夫がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑の作り方や野菜の栽培、嫁と姑との関係、方言など、日常の関わりの中で自然と学び支えあう関係づくりへの取り組みがある。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常的な関わりを通じて入居者の希望や意向等の把握に努め、申し送りノートに記載するなど、共有化に努めている。		日常生活を通じて職員が把握した生活歴等について職員個々や日常の記録の中に埋もれさせてしまうのではなく、例えばセンター方式等を利用するなど、個別記録の充実と情報の共有化を推し進めてほしい。
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日常の関わりの中で入居者及び家族の意見や思いの把握に努め、担当職員と計画作成担当者で原案を作成し、ミーティング時に全職員で協議、作成している。		ケアのための計画の側面だけではなく、入居者の希望等に向き合い、何時どういう時にどういう関わりを行うのかなど、入居者本位の視点に立ったより詳細で具体化した介護計画となるよう努めてほしい。


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	定期的なモニタリング表による見直しとと もに毎月のミーティングにおける全職員参加 による協議や必要に応じたその都度の話し合 いなどが行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	以前からのかかりつけ医受診への対応や入 院時の入院先の医療関係者とホームのかかり つけ医、ホーム職員を交えた協議を行い、早期 退院に努めるなどの取組みがある。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホームとしてのかかりつけ医があり、24時間 何時でも対応可能である。また、ホームのかか りつけ医による1週間に1回の往診があるほ か、入居者の以前からの馴染みのかかりつけ医 の受診については、ホームでの対応も可能であ る。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に対して、入居時に家族の希 望を聞き、希望に沿った支援体制がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	入居者に視線を合わせての会話やゆっくり とした声かけ、入居者の行為への感謝の言葉を 述べるなど、入居者を尊重した対応が見受けら れた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	日中の過ごし方、入浴や食事のタイミング、 食事のペース、食後の過ごし方など、日常生 活の細かな所において入居者のペースに合わ せた対応がみられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	メニューは、入居者の希望を聞きながら作成 されている。配膳や下膳、食事の後片付けな どを入居者と職員が一緒に行い、同じ食卓で和 やかな雰囲気の食事のひとつときであった。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	基本的に毎日の入浴が可能であり、入浴する タイミングやかかる時間など入居者の希望に 沿った支援がある。また、夕方18時過ぎの入 浴も可能である。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	掃除、花の水やり、洗濯物干し、配膳、下膳、食 後の片付け、畑仕事など、入居者のできること や得意なことを把握した上での支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	日常の散歩や買物、入居者の希望によるその 都度の外出など、積極的に出かける取組みがあ る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	玄関やウッドデッキへの出入口は常に開錠 されており、自由に出入りできる。職員は入居 者の様子を良く観察しており、廊下から玄関 ホールへの引き戸にセンサーを設置するなど、 安全面への配慮もある。入居者の自由と安全 のバランスをよく考えている。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	2月に入居者を交えた避難訓練を実施するな どの取組みがある。また、今後年に2回の避難 訓練を実施する予定であり、近隣との連携の中 でも協力を呼びかけている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日 を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	1週間分のメニューからおおよそのカロ リーを計算し、食事量や水分摂取量をチェック することによって栄養バランスや水分量の把 握に努めている。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	下駄箱の上や玄関ホールの壁に昔なつかしい小物を展示し、廊下やリビングなどに季節の植物を飾るなど、心和む工夫がある。リビングは南東向きであり日当たりが良く、リビングとウッドデッキが続き、洗濯物や布団が干されているなど、家庭そのものである。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者個々の居室には、写真や生花、テーブル、椅子、テレビ、筆筒などの思い出の物や馴染みの物が持ち込まれており、入居者の人となりや過去の暮らしぶりのうかがえる居室作りがなされていた。		

 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号